

『第 2 期安芸高田市学校規模適正化推進計画』
(素案)

平成 28 年〇月改定

安芸高田市
学校規模適正化推進本部

目 次

1. 改定にあたって	・ ・ ・ ・ ・ 1
2. 計画の推進期間	・ ・ ・ ・ ・ 2
3. 各校の現状と将来予測	・ ・ ・ ・ ・ 3
(1) 安芸高田市の小学校の現状と予測	・ ・ ・ ・ ・ 3
(2) 安芸高田市の中学校の現状と予測	・ ・ ・ ・ ・ 10
4. 配置計画	・ ・ ・ ・ ・ 13
(1) 安芸高田市の小学校の配置計画	・ ・ ・ ・ ・ 13
(2) 安芸高田市の中学校の配置計画	・ ・ ・ ・ ・ 15
5. 計画の具体化へ向け考慮すべき事項	・ ・ ・ ・ ・ 16
(1) 通学条件の整備	・ ・ ・ ・ ・ 16
(2) 教育条件の整備	・ ・ ・ ・ ・ 16
(3) 学校施設の利活用	・ ・ ・ ・ ・ 16
(4) 計画の円滑な推進	・ ・ ・ ・ ・ 16
参考資料	・ ・ ・ ・ ・ 17

1. 改定にあたって

平成 27 年 3 月、第 2 次安芸高田市総合計画が策定され、今後 10 年間を見通した市の基本構想が示されました。教育委員会では、この計画を上位計画として、「第 2 次安芸高田市教育振興基本計画『つながり、学び、高めあう』安芸高田協育の推進～郷土を想い 夢と志に向けて ともに学び続ける人づくり～」を策定し、安全で豊かな教育環境の整備のため、学校規模の適正化を進めています。

平成 22 年 4 月に学校規模適正化委員会から受けた「答申」では、安芸高田市において望まれる学校規模は、以下のような点から『1 学年複数学級』・『1 学級 20 名から 30 名程度』が望ましいとの意見をいただきました。

(小・中学校の規模は・・・)

○人間関係の固定化を避け、より多様な関わりの中で切磋琢磨してお互いを刺激しあい、柔軟な人間性や社会性を育める。

○部活動を含めた自主活動でもより広い選択が可能になる。

○クラス替えが可能になる。

(1 学級あたりの人数は・・・)

○多様な価値観に触れたり、よい意味での競争心が生まれる。

○体育での集団種目、音楽での合唱やブラスバンド等、集団で行うスポーツや文化芸術活動が可能になる。

この「答申」の内容を尊重し、小学校においては、地域との関わり状況や通学に係る子どもたちの負担に考慮するとともに、特に課題となる小学校の過小規模校化の解決を重点として、平成 23 年度からの 5 年間で第 1 期の推進計画を進めてまいりました。

今後も引き続いて、小学校の規模適正化を地域の合意形成を踏まえ順次行うとともに、中学校においては、1 学年複数学級を見据え、将来的に展望のある教育環境の整備を目的に、第 2 期の学校規模適正化推進計画を策定します。

2. 計画の推進期間

第2期推進計画の推進期間は、平成28年度を起点とし、平成32年度までの5年間とします。

また、第2次安芸高田市総合計画との整合を図り、必要に応じてローリングし計画の具体化を図ります。

3. 各校の現状と将来予測（平成 28 年 3 月現在）

※平成 27 年度の数值は、学校基本調査の通常の学級に在籍する児童数

※平成 33 年度の数值は、平成 28 年 1 月現在の学校区別児童生徒数調べによる。ただし、全員が通常の学級に入学と見込む。

（1）安芸高田市の小学校の現状と予測

校番 01 吉田小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数・学級数の予測では、年度により児童数に多少の増減はあるものの、規模の変動は小さいものと想定される。学級数は、各学年 2 学級で推移する見込み。

01 吉田小学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	30	25	55	2	1	28	36	64	2	
2	24	21	45	2	2	26	35	61	2	
3	36	32	68	2	3	29	28	57	2	
4	31	27	58	2	4	28	25	53	2	
5	32	33	65	2	5	35	31	66	2	
6	26	31	57	2	6	23	27	50	2	
計	179	169	348	12	計	169	182	351	12	

《 施設の状況 》

施設は古く、本校舎(昭和 37 年から昭和 39 年建築)は、鉄筋コンクリート造としては安芸高田市内で最も古い建物のうちの 1 つである。本校舎は、平成 22 年度に耐震補強及び大規模改修工事を完了し、新校舎も、平成 23 年度に改修工事を完了している。屋内運動場は、耐震改修の必要はない。

校番 02 可愛小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は、減少が続くと思われる。学級数も平成 28 年度からは 1 学年 1 学級となる見込み。

02可愛小学校

平成27年度（通常の学級）					平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数	学年	男子	女子	計	学級数
1	9	15	24	1	1	15	6	21	1
2	23	13	36	2	2	13	10	23	1
3	15	14	29	1	3	9	11	20	1
4	16	17	33	1	4	10	12	22	1
5	12	10	22	1	5	15	8	23	1
6	14	16	30	1	6	17	7	24	1
計	89	85	174	7	計	79	54	133	6

《 施設の状況 》

校舎は、平成 6 年に建築され、比較的新しく安全面での問題は少ない。屋内運動場は、昭和 54 年の建築で、旧基準適用の施設であることから、平成 22 年度に耐震診断を実施し、平成 25 年度に耐震改修工事を完了した。

校番 03 郷野小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は、今後も減少が続くと思われる。平成 28 年度には、3・4 年生の人数が 16 人以下になることから、複式学級となり、将来的にも複式学級が恒常的に存在することが想定される。

03郷野小学校

平成27年度（通常の学級）					平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数	学年	男子	女子	計	学級数
1	2	7	9	1	1	3	2	5	1
2	4	2	6	1	2	3	2	5	1
3	6	4	10	1	3	3	4	7	1
4	7	3	10	1	4	4	2	6	1
5	7	4	11	1	5	2	2	4	1
6	5	6	11	1	6	7	5	12	1
計	31	26	57	6	計	22	17	39	4

《 施設の状況 》

校舎は安芸高田市内で唯一の木造校舎で、昭和 10 年に建築された。市内では最も古い校舎である。平成 23 年度に耐震診断を実施した。屋内運動場は、昭和 60 年に新基準で建築され、耐震改修は必要ない。

校番 04 刈田小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

現在、5・6年生は既に複式学級であり、過小規模校である。今後の児童数は、若干の増加傾向にあると思われるが、10人に満たない学級が恒常的に存在すると想定される。

04刈田小学校

平成27年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	5	7	12	1
2	3	5	8	1
3	3	3	6	1
4	5	7	12	1
5	4	2	6	1
6	6	1	7	
計	26	25	51	5



平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	2	5	7	1
2	6	5	11	1
3	1	1	2	1
4	8	10	18	1
5	5	5	10	1
6	11	3	14	1
計	33	29	62	6

《 施設の状況 》

校舎は、昭和57年に新基準で建築され、耐震改修の必要はない。屋内運動場は、昭和56年に建築されていることから、平成23年度に耐震診断を実施したが、診断結果から補強工事の必要はない。

校番 05 根野小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は、増加傾向が続くが、学級数は1学年1学級であり、大きな変化はないものと想定される。

05根野小学校

平成27年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	6	6	12	1
2	11	10	21	1
3	8	13	21	1
4	6	5	11	1
5	8	6	14	1
6	10	14	24	1
計	49	54	103	6



平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	12	12	24	1
2	9	11	20	1
3	11	10	21	1
4	14	7	21	1
5	8	11	19	1
6	9	11	20	1
計	63	62	125	6

《 施設の状況 》

校舎・屋内運動場とも、昭和63年に新基準で建築され、耐震改修の必要はない。

校番 06 美土里小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数の減少傾向は、今後も続くと思われる。平成 33 年度の予測では、平成 27 年度の約 60%程度になることが想定される。学級数は、1 学年 1 学級を維持する見込み。

06美土里小学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	14	5	19	1	1	9	7	16	1	
2	12	10	22	1	2	7	1	8	1	
3	11	8	19	1	3	6	4	10	1	
4	9	15	24	1	4	7	10	17	1	
5	8	15	23	1	5	9	7	16	1	
6	9	13	22	1	6	8	4	12	1	
計	63	66	129	6	計	46	33	79	6	

《 施設の状況 》

校舎は、平成 15 年に新基準で建築され、耐震改修の必要はない。

校番 07 川根小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数の減少傾向は、今後も続くと思われる。現在 1 年生は単式学級であるが、2 年生の在籍はない。他の学年はすべて複式学級となっており、過小規模校である。また、年度によっては、新入生や卒業生がいない場合も想定される。

07川根小学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	4	4	8	1	1	2	1	3	1	
2	0	0	0	0	2	1	0	1	1	
3	2	1	3	1	3	1	1	2	1	
4	4	2	6		4	1	1	2		
5	6	1	7	1	5	0	0	0	1	
6	4	2	6		6	1	2	3		
計	20	10	30	3	計	6	5	11	4	

《施設の状況 》

校舎は、昭和 60 年に新基準で建築され、耐震改修は必要ない。屋内運動場は、昭和 53 年に建築しているが、平成 16 年に耐震改修を行っている。

校番 08 来原小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数の減少傾向は、今後も続くと思われる。平成 33 年度の予測では、1 学年 8 人以下の学年も見込まれ、3・4 年生、5・6 年生は複式学級になる見込みである。

08来原小学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	3	6	9	1	1	2	6	8	1	
2	4	6	10	1	2	4	6	6	1	
3	1	7	8	1	3	3	6	6	1	
4	3	8	11	1	4	3	4	4		
5	6	7	13	1	5	5	6	6	1	
6	7	5	12	1	6	9	10	10		
計	24	39	63	6	計	24	16	40	4	

《施設の状況》

校舎は、平成 5 年に新基準で建築され、耐震改修は必要ない。屋内運動場は、昭和 54 年に建築されているが、平成 16 年に耐震改修を行っている。

校番 09 船佐小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数の減少傾向は、今後も続くと思われる。平成 27 年度の時点で、5・6 年生が複式学級であり、過小規模校である。将来的にも複式学級が恒常的に存在するものと想定される。

09船佐小学校

平成27年度（普通学級）					→	平成33年度（普通学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	8	9	17	1	1	4	0	4	1	
2	6	3	9	1	2	6	6	12	1	
3	3	3	6	1	3	1	8	9	1	
4	3	6	9	1	4	4	4	8	1	
5	3	4	7	1	5	5	1	6	1	
6	2	2	4		6	0	4	4		
計	25	27	52	5	計	20	23	43	5	

《施設の状況》

校舎・屋内運動場とも、昭和 58 年に新基準で建築され、耐震改修の必要はない。

校番 10 甲立小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数・学級数の予測では、年度により児童数に多少の増減はあるものの、規模の変動は小さいものと想定される。

10甲立小学校

平成27年度（通常の学級）					平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数	学年	男子	女子	計	学級数
1	11	8	19	1	1	4	5	9	1
2	4	7	11	1	2	4	6	10	1
3	4	5	9	1	3	6	5	11	1
4	8	4	12	1	4	8	10	18	1
5	4	5	9	1	5	5	7	12	1
6	7	7	14	1	6	9	5	14	1
計	38	36	74	6	計	36	38	74	6

《施設の状況》

校舎は、昭和 59 年に新基準で建築され、耐震改修は必要ない。屋内運動場は、昭和 52 年に建築され、旧基準の施設であることから、平成 23 年度に耐震診断を実施し、平成 24 年度に耐震改修を完了した。

校番 11 小田小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は減少しており、過小規模校である。学級数は、既に 3.4 年生が複式学級であり、今後も複式学級が恒常的に存在することが想定される。

11小田小学校

平成27年度（通常の学級）					平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数	学年	男子	女子	計	学級数
1	4	3	7	1	1	2	1	3	1
2	5	4	9	1	2	5	3	8	1
3	1	6	7	1	3	2	1	3	1
4	4	4	8		4	2	3	5	
5	7	4	11	1	5	3	4	7	1
6	3	5	8	1	6	4	3	7	
計	24	26	50	5	計	18	15	33	4

《施設の状況》

校舎は昭和 55 年、屋内運動場は昭和 54 年に建築され、旧基準の施設であることから、平成 23 年度に耐震診断を実施し、屋内運動場は平成 25 年度に耐震補強工事を完了した。

校番 12 小田東小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は、増加傾向が続くが、学級数に大きな変化はなく 1 学年 1 学級で推移するものと想定される。

12小田東小学校

平成27年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	4	7	11	1
2	8	3	11	1
3	0	9	9	1
4	11	7	18	1
5	6	6	12	1
6	11	7	18	1
計	40	39	79	6



平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	4	11	15	1
2	7	8	15	1
3	15	5	20	1
4	8	11	19	1
5	6	4	10	1
6	14	10	24	1
計	54	49	103	6

《施設の状況 》

校舎は昭和 53 年、屋内運動場は昭和 55 年に建築しており、旧基準の施設であることから、平成 23 年度に耐震診断を実施した。屋内運動場は平成 25 年度に耐震補強工事を完了した。

校番 13 向原小学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

児童数は減少傾向であり、平成 33 年度の予測では、1 学年の児童数が、20 人を割り込む学級が半数となることが想定される。

13向原小学校

平成27年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	11	9	20	1
2	8	13	21	1
3	14	12	26	1
4	14	11	25	1
5	8	11	19	1
6	15	11	26	1
計	70	67	137	6



平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数
1	8	7	15	1
2	4	9	13	1
3	5	13	18	1
4	13	17	30	1
5	12	11	23	1
6	7	13	20	1
計	49	70	119	6

《施設の状況 》

校舎は昭和 53 年、屋内運動場は昭和 49 年度に建築しており、旧基準の施設であることから、耐震診断を実施し、平成 24 年度に耐震補強工事を完了した。

(2) 安芸高田市の中学校の現状と予測

校番 14 吉田中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、やや増加傾向であり、多少の増減は見込まれるものの、規模の変化は少ないと想定される。学級数も1学年3学級で推移する見込み。

14吉田中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	52	39	91	3	1	41	47	88	3	
2	54	49	103	3	2	51	36	87	3	
3	41	37	78	3	3	57	50	107	3	
計	147	125	272	9	計	149	133	282	9	

《施設の状況》

校舎は、昭和44年に建築され、平成22年度に耐震補強と大規模改修工事を完了した。屋内運動場は、昭和46年に建築され、平成22年度に耐震診断を行い、これを受けて平成22年度に耐震補強工事を完了した。

校番 15 八千代中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、増加すると想定され、平成33年度の予測では、平成27年度と比較して40%程度増加する見込み。学級数は、全学年とも1学級になっており変動はない。

15八千代中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	10	8	18	1	1	11	13	24	1	
2	11	10	21	1	2	14	15	29	1	
3	10	8	18	1	3	11	16	27	1	
計	31	26	57	3	計	36	44	80	3	

《施設の状況》

校舎は昭和54年、屋内運動場は昭和55年に旧基準で建築されているため、平成22年度に耐震診断を実施し、平成22年度に耐震補強工事を完了した。

校番 16 美土里中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、年々減少が続いており、学級数は全学年とも1学級となっている。今後の予測では、生徒数は、引き続き減少すると想定される。

16美土里中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	11	12	23	1	1	14	5	19	1	
2	10	11	21	1	2	12	10	22	1	
3	8	15	23	1	3	11	8	19	1	
計	29	38	67	3	計	37	23	60	3	

《 施設の状況 》

校舎は昭和48年に建築され、平成12年に耐震改修工事・平成13年に大規模改造工事を行っている。また、屋内運動場は昭和50年に建築され、平成13年に耐震改修工事及び大規模改造工事を行っている。

校番 17 高宮中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、緩やかに減少している。学年ごとの学級数は、1学級が定着している。今後も人数の減少は進むと想定される。

17高宮中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	11	11	22	1	1	15	19	34	1	
2	18	12	30	1	2	10	9	19	1	
3	6	18	24	1	3	6	11	17	1	
計	35	41	76	3	計	31	39	70	3	

《 施設の状況 》

校舎・屋内運動場とも、昭和63年に新基準で建築され、耐震改修の必要はない。

校番 18 甲田中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、減少傾向にあり平成 31 年度には 100 名を割り込むものと想定される。学級数は 1 学年 1 学級が定着する見込み。

18甲田中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	21	16	37	1	1	19	18	37	1	
2	23	10	33	1	2	17	14	31	1	
3	13	23	36	1	3	5	20	25	1	
計	57	49	106	3	計	41	52	93	3	

《 施設の状況 》

校舎は昭和 53 年、屋内運動場も昭和 55 年に建築され、旧基準適用の施設となっていることから、平成 23 年に耐震診断を実施し、ともに平成 24 年度に耐震補強工事を完了した。

校番 19 向原中学校

《 児童数・学級数の将来予測 》

生徒数は、減少傾向にあり、校区内の小学校の児童数を勘案すると、さらに減少していくものと想定される。学級数は 1 学年 1 学級が定着している。

19向原中学校

平成27年度（通常の学級）					→	平成33年度（通常の学級）				
学年	男子	女子	計	学級数		学年	男子	女子	計	学級数
1	18	15	33	1	1	11	9	20	1	
2	9	13	22	1	2	8	13	21	1	
3	11	11	22	1	3	14	12	26	1	
計	38	39	77	3	計	33	34	67	3	

《 施設の状況 》

校舎は昭和 53 年の建築であることから、平成 21 年度に耐震診断を実施し、平成 22 年度に耐震改修工事を実施した。屋内運動場は昭和 49 年度に建築され、旧基準の施設であるため、平成 22 年度に耐震診断を実施し、平成 22 年度に耐震改修工事を実施した。

1. 配置計画

(1) 安芸高田市小学校の配置計画

【基本的な考え方】

小学校の配置については、答申において「望まれる学校規模は1学年複数学級、1学級20名から30名程度」とされていますが、下記の理由により「過小規模校を解消すること」を目標とし原則各町に1小学校とします。ただし、吉田町においては、1小学校に統合する場合にはいずれの敷地も狭隘で校舎の増築に耐えられないことから2小学校とします。

- ① 小学校はこれからも地域の学校への愛情や教育力に支えられる必要があること。
- ② 児童の遠距離通学に伴う通学時間の負担を考慮する必要があること。

現 学 校 名	新 学 校 名	場 所
吉田小	(現行どおり)	吉田町吉田
可愛小、郷野小	愛郷小(仮称)	吉田町山手
刈田小、根野小	※八千代小	八千代町上根
美土里小	(現行どおり)	美土里町本郷
川根小、来原小、船佐小	高宮小(仮称)	高宮町佐々部
甲立小、小田東小、小田小	※甲田小	甲田町上甲立
向原小	(現行どおり)	向原町坂

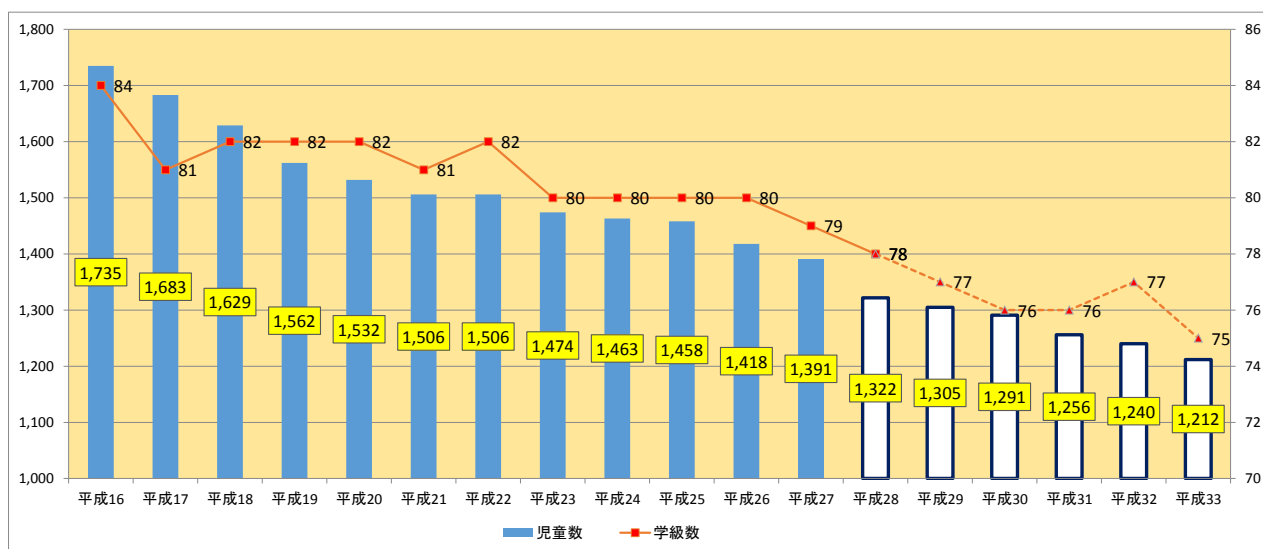
※八千代小、甲田小は平成30年4月1日統合予定

【実施期間】

この計画の実施期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間とし、引き続き地域の合意形成を踏まえ順次行うこととします。

■児童数・学級数の推移と今後の推計(公立学校基本数報告の児童数)

※平成28年度以降の数值は、学校別児童生徒数調べによる見込み数



■第2期推進計画終了後の児童数推計

平成33年度 児童数推計（現行どおり13校の場合）

	学校名	吉田小	可愛小	郷野小	刈田小	根野小	美土里小	川根小	来原小	船佐小	甲田小	小田小	小田東小	向原小	合計
	児童総数		351	133	39	62	125	79	11	40	43	74	33	103	119
1年生	学年人数	62	19	5	8	22	16	3	8	4	9	3	14	13	186
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	31	19	5	8	22	16	3	8	4	9	3	14	13	155
2年生	学年人数	63	23	5	11	20	8	1	6	12	8	7	14	13	191
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	32	23	5	11	20	8	1	6	12	8	7	14	13	160
3年生	学年人数	61	18	7	1	21	9	2	6	9	11	3	20	17	185
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	30	18	7	1	21	9	2	6	9	11	3	20	17	154
4年生	学年人数	54	23	6	18	21	17	2	4	8	18	5	19	28	223
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	27	23	6	18	21	17	2	4	8	18	5	19	28	196
5年生	学年人数	68	23	4	11	20	16	0	6	6	11	7	10	22	204
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	34	23	4	11	20	16	0	6	6	11	7	10	22	170
6年生	学年人数	52	23	13	12	22	12	3	10	5	14	7	20	20	213
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14
	学級人数	26	23	13	12	22	12	3	10	5	14	7	20	20	187



平成33年度 児童数推計（統合後7校となった場合）

	学校名	吉田小	(仮称)愛郷小	八千代小	美土里小	(仮称)高宮小	甲田小	向原小	合計
	児童総数		351	172	187	79	94	210	119
1年生	学年人数	62	24	30	16	15	26	13	186
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	8
	学級人数	31	24	30	16	15	26	13	155
2年生	学年人数	63	28	31	8	19	29	13	191
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	8
	学級人数	32	28	31	8	19	29	13	160
3年生	学年人数	61	25	22	9	17	34	17	185
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	8
	学級人数	30	25	22	9	17	34	17	154
4年生	学年人数	54	29	39	17	14	42	28	223
	学級数	2	1	1	1	1	2	1	9
	学級人数	27	29	39	17	14	21	28	175
5年生	学年人数	68	27	31	16	12	28	22	204
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	8
	学級人数	34	27	31	16	12	28	22	170
6年生	学年人数	52	36	34	12	18	41	20	213
	学級数	2	1	1	1	1	2	1	9
	学級人数	26	36	34	12	18	41	20	187

(2) 安芸高田市中学校の配置計画

【基本的な考え方】

中学校の配置については、「答申」において「望まれる学校規模は1学年複数学級、1学級20名から30名程度」とされていることを実現するために、第1期の推進計画では、「市内2中学校とする。」とされていましたが、

○生徒数の更なる減少

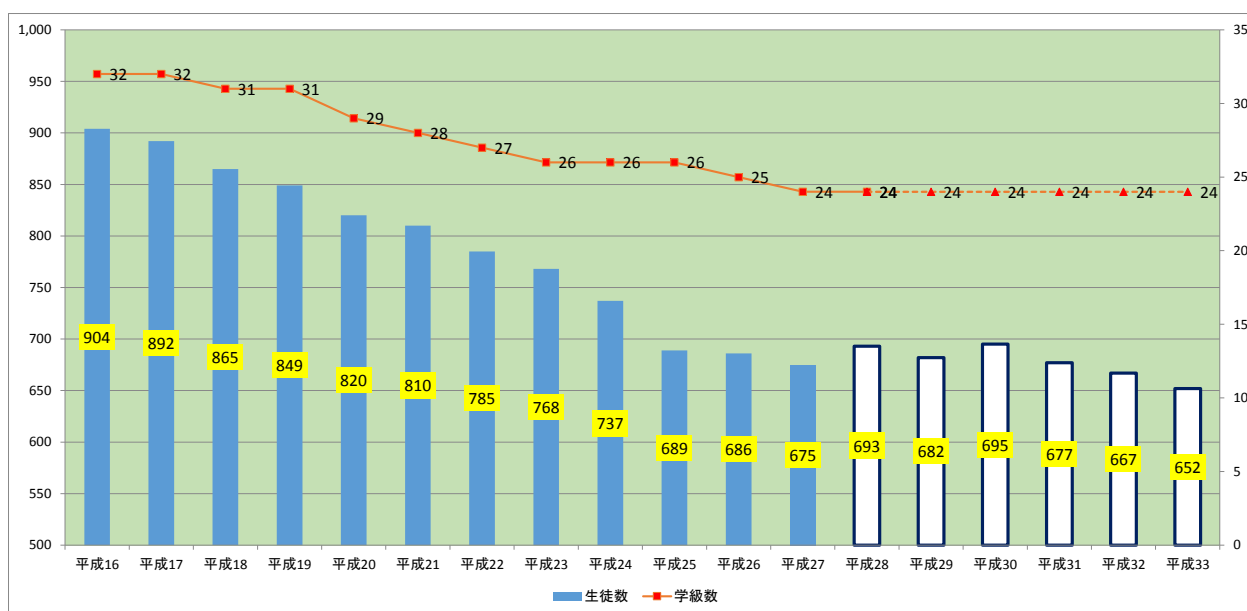
○クラブ活動の種類が限定される状況

○学級数が少なくなるに従い、配置される教職員数が少なくなる状況

などから、その具体的な配置については、校数を含めて、小学校の実施状況を勘案しながら然るべき時期に再度検討します。

■ 生徒数・学級数の推移と今後の推計（公立学校基本数報告の生徒数）

※平成28年度以降の数値は、前年度小学校卒業の児童全員が安芸高田市内の中学校に進学した場合の生徒見込み数



5. 計画の具体化へ向け考慮すべき事項

(1) 通学条件の整備

児童・生徒の通学条件は、児童・生徒の日常生活に大きな影響を与えます。したがって、児童・生徒の通学距離は、通常小学校は4km以内、中学校は6km以内が適切とされていることから、児童・生徒の通学時間は、小学校は40分以内、中学校は1時間以内を目途とし、遠距離通学児童・生徒については、公共交通の利用もしくはスクールバスの運行により対応します。

(2) 教育条件の整備

学校規模の適正化の具体化にあたっては、そのメリットを児童・生徒が享受し、そのデメリットが最大限解消されるための教育条件が整備される必要があります。

このため、統合によって1学級30人以上の学級が増加することが想定されますが、こうした学級については、チームティーチング等の少人数授業の実施、特別な支援を必要とする児童・生徒への支援をするための教育介助員の配置等きめ細やかな指導体制を構築する必要があります。

また、多様な学習活動や部活動の充実に向けて外部講師や指導者を招聘するとともに、施設・設備面においても条件整備を図る必要があります。

さらに、学校規模の変化に児童・生徒が戸惑わないように、きめ細やかな支援を行うために教職員の加配や家庭教育支援員等の充実を図る必要があります。

(3) 学校施設の利活用

地域から学校がなくなることは、学校を支えてきた地域住民にとっては心寂しいことであると同時に地域の活力が失われていくことも懸念されます。したがって、学校施設の利活用を中心とした地域振興策については、地域住民の意向を十分に踏まえ、学校規模の適正化と並行して検討していく必要があります。

(4) 計画の円滑な推進

この計画を円滑に実施していくためには、安芸高田市及び安芸高田市教育委員会は、児童・生徒の保護者をはじめ地域住民の皆さんと「児童・生徒を中心にすえた」協議を真摯に進め、合意形成を図るとともに、本計画の具体化にあたっては、保護者、地域住民、学校、行政が一体となった「準備委員会」を設置し、施設整備、学校の名称、校章、校旗、校則、式典行事等の調整を進め、新たな学校創設へ向けた取り組みを行うこととします。

〈教職員定数関係〉

○教員定数の激変緩和措置

市町村合併に伴う統合で、教育上特別の配慮を必要とする場合は、最長、小学校は5年間、中学校は2年間の激変緩和措置を講じる。

○校舎建築期間における教職員定数算定の特例

統合後の新校舎が完成するまでの間、統合前の校舎で授業を行っている場合は、統合前の学校をそれぞれ一の学校とみなして教職員定数を算定。

〈通学関係〉

○スクールバス・ボート購入費補助

へき地や人口の過疎現象に起因する場合、スクールバス・ボート購入費の一部を国が補助。 ※ 補助率 1/2

○遠距離通学費補助

〈運営費（地方交付税措置）関係〉

○地方交付税減額の激変緩和措置

学校統合等により学校・学級数が減少した場合は、基準財政需要額算定の際に「学校数（5年間）」「学級数（3年間）」を測定単位とするものについて激変緩和措置を講じる。

〈施設整備関係〉

○統合校舎等の新增築

統合に伴い、必要な校舎又は屋内運動場の新築又は増築に要する経費の一部を国が負担。

区分	負担率（原則）	負担率の特例（過疎等）
校舎	1 / 2	5.5 / 10
屋内運動場	1 / 2	5.5 / 10

○学校統合に伴う既存施設の改修

学校統合が条例等で定められたものに限り、学校統合の予定年度の3年度前から整備することができる。

区分	負担率（原則）	負担率の特例（過疎等）
校舎	1 / 2	5.5 / 10
屋内運動場	1 / 2	5.5 / 10

○財産処分手続きの簡素化・弾力化（補助金返還措置の緩和）

○統合に伴う起債及び地方交付税措置

（充当率等）

区分	起債 充当率	交付税算入率 学 校 債	交付税算入率 財源対策債
新增築	90%	70%	50%
統合改修	90%	70%	50%